

学びのデザインシート（授業前）

主体的・対話的で深い学びを実現する授業構想【作業学習】

1. 対象 知的障害 高等部 金属加工班に所属する1～3年生 3人

- ・全員が軽度の知的障害であり、卒業後の進路として企業就労を目指している。
- ・他者とのコミュニケーションを苦手とする生徒がいる一方で、必要な指示や身に付けてほしい技術を上級生が下級生に伝える姿が、自然と見られる。

2. 単元名「○○祭に向けて」（全20時間）

3. 単元で育成すべき資質・能力の三つの柱につながる単元の評価規準

①知識・技能	正しい道具の扱い方や材料の加工方法を理解しているとともに、その技能を身に付けている。
②思考・判断・表現	出来上がった製品について、適切な良否判断を行いながら、納品期日と生産量の見通しをもって、作業に取り組んでいる。
③主体的に学習に取り組む態度	きれいに仕上がった製品がお客様に喜ばれることが分かり、生徒同士で製品の良否を話し合いながら作業を進めている。

4. 本時の目標

お客様が満足する製品を作るために、気を付けることを考え、発表したり、活動に生かしたりすることができる。

5. 授業展開【**本時**・単元】

解決したい課題や問い
仕上がりきれいな製品を作るために、どんなことに気を付けて作ると良いのか。

考えるための材料A	考えるための材料B	考えるための材料C
製品を作るための手順表(写真入り)	製品の見本 判断基準を示した表(チェック表)	分からないこと、難しい工程を、先輩に聞くことができるよう、1～3年生を含んだ班編成
想定される活動		
写真があることで、一つ一つの手順を確認し、正しい手順を理解する。 道具を正しく扱い、作業を正確に行うよう確認する。	作業の途中で製品の見本や判断基準表を見て、仕上げの仕方により製品の印象が変わることに気が付く。	どうすればよいか分からないときに、上級生に聞く。 困っている下級生に、上級生が自分から言葉を掛ける。

対話と思考（対話を通じた協働的な問題解決のプロセス）
①【個人で思考】 考えるための材料A・Bをもとに、自分が作る製品について何に気を付けて作るのかを考える。
②【班で対話】 個人で考えた内容をお互いに伝え合う。 個人の意見を受けて、経験のある3年生が、1・2年生にどうすれば仕上がりきれいな製品ができるのかについてアドバイス（考えるための材料C）をする。また、必要に応じて、考えるための材料、

どの工程に気を付ける必要があるのかを考えるために過去の作業日誌に戻るよう、上級生や教師が助言する。

③【全体に発表】終礼時に発表の時間を設ける。

グループで話し合った内容を発表し、「どのようなことに気を付けて製品を作るのか」について全体で意見交換を行う。

学習の成果（予想される生徒のあらわれ）

- ・正しい手順で作ることで、見た目にもきれいな製品が出来上がるのではないかな。
- ・慌てずに、ゆっくりと切断した方が良い。
- ・正しく道具を使うことで、より正確に切断や折り曲げの加工を行うことができ、仕上がりもきれいになるのではないかな。
- ・折り曲げの工程では、（該当箇所によって）折り曲げ機やつかみ箸を使い分けると良いかも。
- ・仕上げとして、磨き剤を使ったら良いのではないかな。
- ・丁寧に作るには時間がかかるから、早く、作業を始めたい。